へ13
2378
374

遠 2378 374

情競傾城嵩

前編

坂東秀佳作
哥川國安画
丙戌春
仙窟堂販

古き人の遊行女と記めるこれ今世の遊び女なるめ元何に寄て遊女遊君の名あり詩の漢の遊女在とあれば是の因て号しなされば古れ余風今の残りて編女妓余屋と編名を弱し土佐の船の場を上る馬と
いふ往昔はさんちあひの捨洞なるべ且家の通り洞さえ近世八ちりかなりそ
やがのちなきと甚父とのひたれせうを庄八さんなるで唱ゆきあせうとりあそいき
まちうとのいべ誰さえを推せへと味なるるに日せーるど唯古今れるるぬたりと
いきぢの二道のきれば清城とかきとけて秀佳子爰の播州傾城ぢ
嵩の古支をのせて山城の女郎が渕筑前の君ぢ畑ちく播广の舞子の
濱るどこのその名を里よりとづくの古跡るふんとふ而已て此一冊乃
及古たとえが捨るかこんぢ羅へとるるも助けるかこ洗ひ稿で梳ぐさ作者の
東八代うや仲の町と云爾　あげや町とおさく　五街遊人調布識

男連
鷲丸
長吉
寶暦印本
遊女百人一首

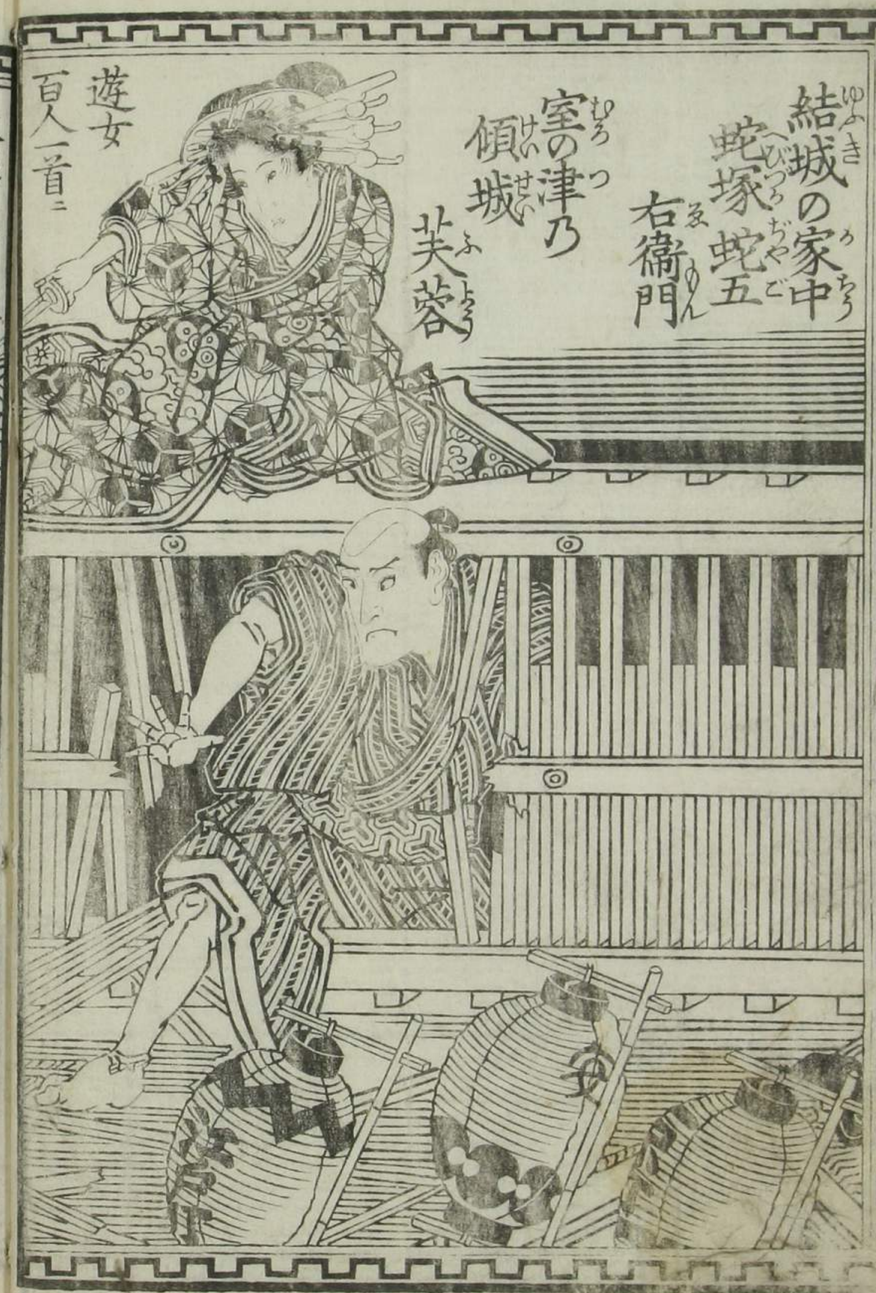
万葉集第九の歌
金門より
人の来てとて
夜はもすがら
たたきあけて
出てあるけ
右遊女
末の珠名
男連
笹岡
甚三
まるすや
徐屋

男達
腕の喜右衛門
男達
糸鬢
十兵衛
万金丹
黒丸子
袖乃梅
袖乃梅
萬小間物
下駄傘
屋
井戸
祐
五郎
高橋
太夫

結城の家中
蛇塚蛇五
右衛門

室の津乃
傾城
芙蓉

遊女
百人一首ニ



後撰集の歌

雜春ぶ
何ゆゑも
あふぢ
身をばうら
ふきんの
ちぐさ
むかりまを

右遊女
鳥飼の
立
野の

室の津の傾城
高橋

遊女百人一首ニ
古今集第八の歌
命だに心に叶ふものならば
なにか別の悲しかるらん
右遊女
江口の白女
男達
奴次兵衛
八月朔日より
仁和賀
金札
男達
前髪三左衛門
男達
金平弥左衛門

室の津の傾城高橋ゞ
新造高窓

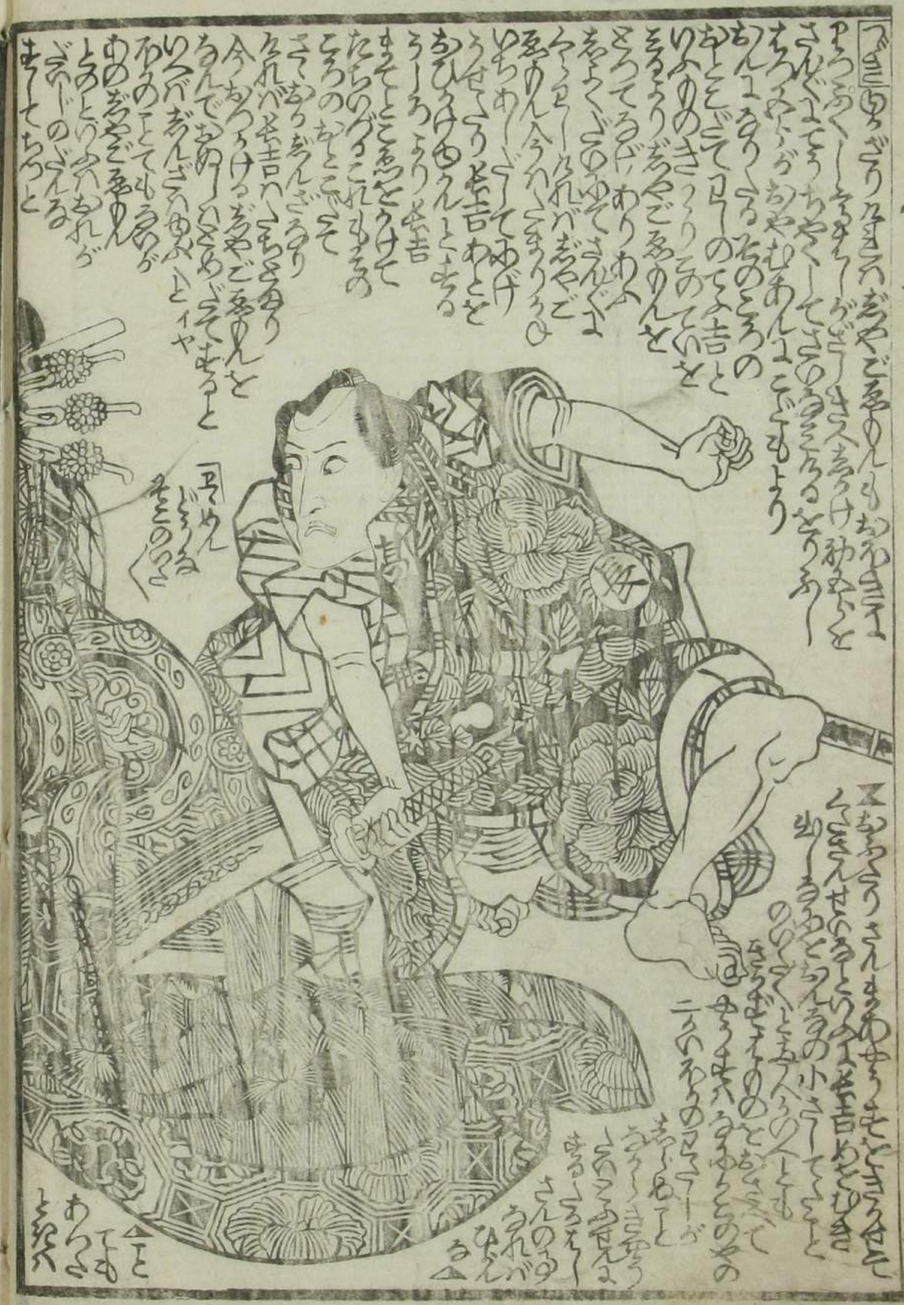
遊女百人一首

右遊女手越の千寿

同
英賢
新造
楓

播州傾城ゞ嵩の図

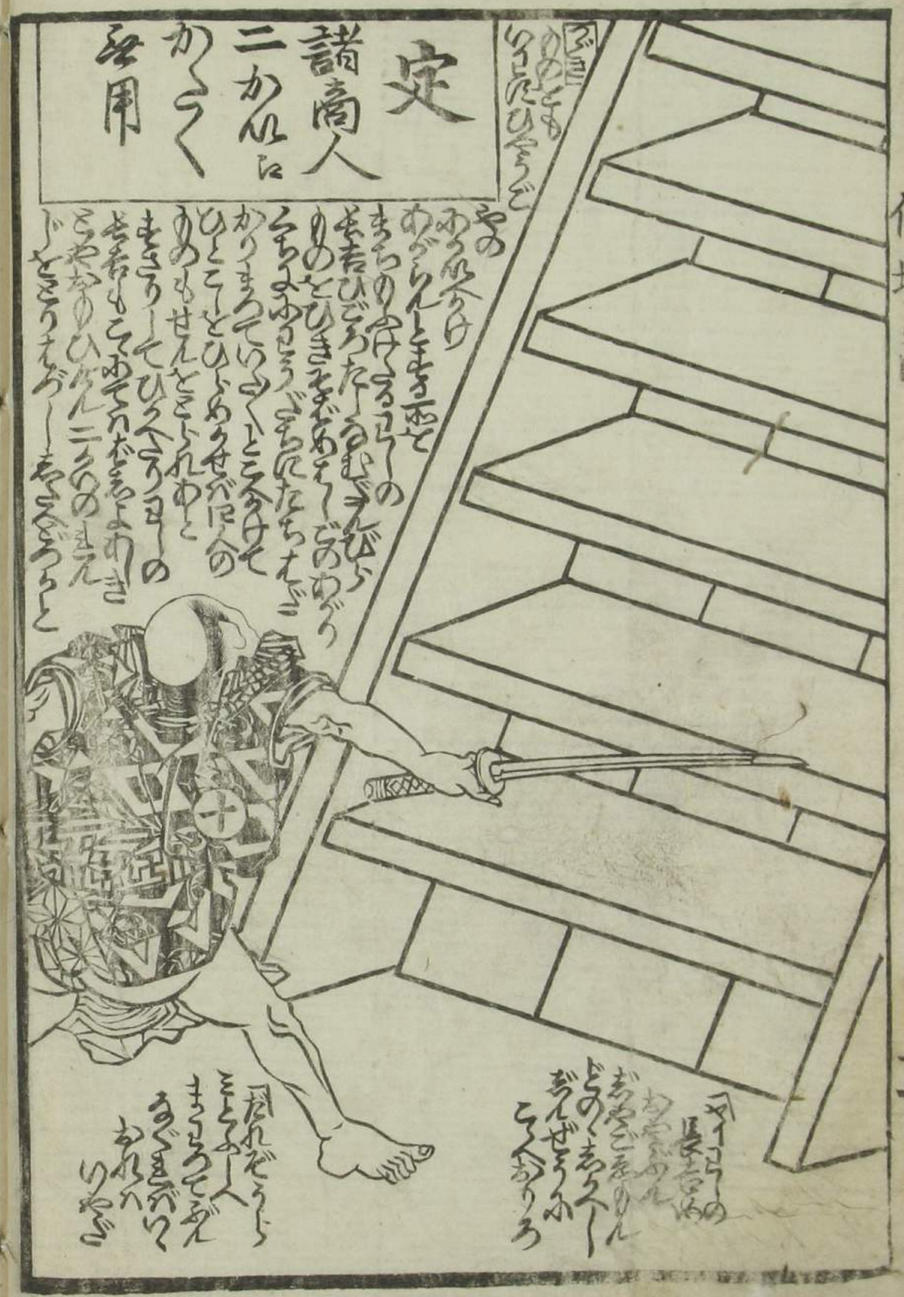
傾城ゞ嵩のあるとこの所のけいせい
まちたてたるのゆへそのむかしあのの
ちとうやとゝゆのどゝもあんとて
たきるふげんーやあるろうけもあん
めうけうぶんーとうづけ
てんゝゆまれるゝまとしたのこぼと
めづらしたてまつりーふゆるゝ衣たのあ
ゝるきうめやきうもきさん
ぎうーゆゝゆのとも
せうぞくよりでこちむあんをん
ゝれもさーとゝーゆのちゝらん
うたいとうゆゝゝゝれもぞうるのゆめも
ゝるゝふゝこれとゝゝゝれはよゆけこれと
ゝうけうゝをゝとうゝーてすゝゝゝゝへ
ゝるゝのゝづけうゝゝくゝゝうゝゝら
よびむゝゝゝいゝけゝうゝづゝん
ぎんみゝれゝもゝゝゝゝゝせーゝゝゝ
ゝくゝたゝゝゝゝゝゝのゝたゝゝのゝゝ
のゝゝゝゝゝゝゝれゝばゝゝゝゝゝゝ
ゝゝれゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ



頃城嵩
きりや
十
九

あ
蛇
次

角町


定
諸商人
二かんにかぎる
五用

五町分

新
高

揚ハリ
とる亀
うらじ

初
長

かりの
三義

坂東彦三郎作
歌川國安画

日本橋通油町鶴屋

丙戌春新板

後編

てんのうの形

いきてゐる

作味の獄

あ為美

きうかく

むあ画

仙雀堂

初
往昔思大津
一名小のゝぶき
稿成近出

新吉原仲之町
京御菓子司
竹村伊勢

「おそのさん　おまへのこころのねんが
おころさんのこころのねんが
めのこころのこころのこころ
おころえんごやのこさ

「おころさんい
さきへいきやア
おころへのこう

「ぶんやさんの
ちやさんを
ぬまさん
これあと
ふこの
ふこ
ふこうハ
ひつこう
こてや
あの
らえ
ゆ
せ
ぎ
ふこう
まのと
ふこう
ふこを
ふこの
ちこう
ふこう
ふこうが
ごーきえ
いそぎ
ふこう

「ふこうハ
ごぶん

つぎ　ぎんぶらこけんぶらこのうくりんたろうわこ
びっくりこまつとろとぎんざいこまつけうるよ
よるまつのところへくとさてへこけんのちーはそまろとんて
こしのぶきよりくうろこまでそのふこのひぶんか
わるまつのとのつまるもてーふふうハがてんぬぞ
よでうろくうろつくだうろうるりぶきよ
あるとのてさもぶちとこぎのの
さてとろぎんざるめるれども
ぎぶこぎのんどうぞうらんと
コれとこどこへつことどを
ひきこけてのこるこの
アやうけんそまてと
さとろて長ぎがげうの
こくいんこりやふろの
おのトんこちこれで
ひぶんか
ちいやどよ
わわ
とのくわと
おってゆく
ことハやあこさろーれ
あまぶぎんざまぶをつけて
これでのめどとそんざうふハ
そのせうこのぶこハかみくくと
いぜんのまこをさ解ぶこうもぶって

「あくくぶの
ぶこーぶのよ
ローの長たが
ぼくうの
こんぷう
カラくくく」

「これこそぶを
そぶくくる
まつのぞ」

ぶだのことえるゆもかもなんあさまる
うくうトふかさるのてぶやこるのんどのよ
つもりさてらいこんハるのぞこのちふ
まさおやこんどのこうえんの
かのがあくこるトそれこそ
ぶ長ぎがかつてんせねぞサア
それでもいひぶんがあるのくと
いるよふまうたるもーも
ふるそあるとそて何のゆゆう
せろうくせうこのそのふも
そのやうふやぶろてきて
アノ初めふさんを甘ひと
るさんもあまるぶこれで
もんぎとあまぶこの
うくようんのこさてらぶ
くまひんせうちくぶ
アノ初めふさんハのそれで
でもうまもんーふが
そまでぶこのことを初めふ
さんよまふせてあげくこの
のでぶざんもとりぶ
ぎんざハイやくまふせろゆハ
ちらぞぬぞあでおやぞるのんさんハあーえ
いつげぞくよまくふぶぶこよまくふぶるりんの
まちぞんいまにちふくこたちくてびまて

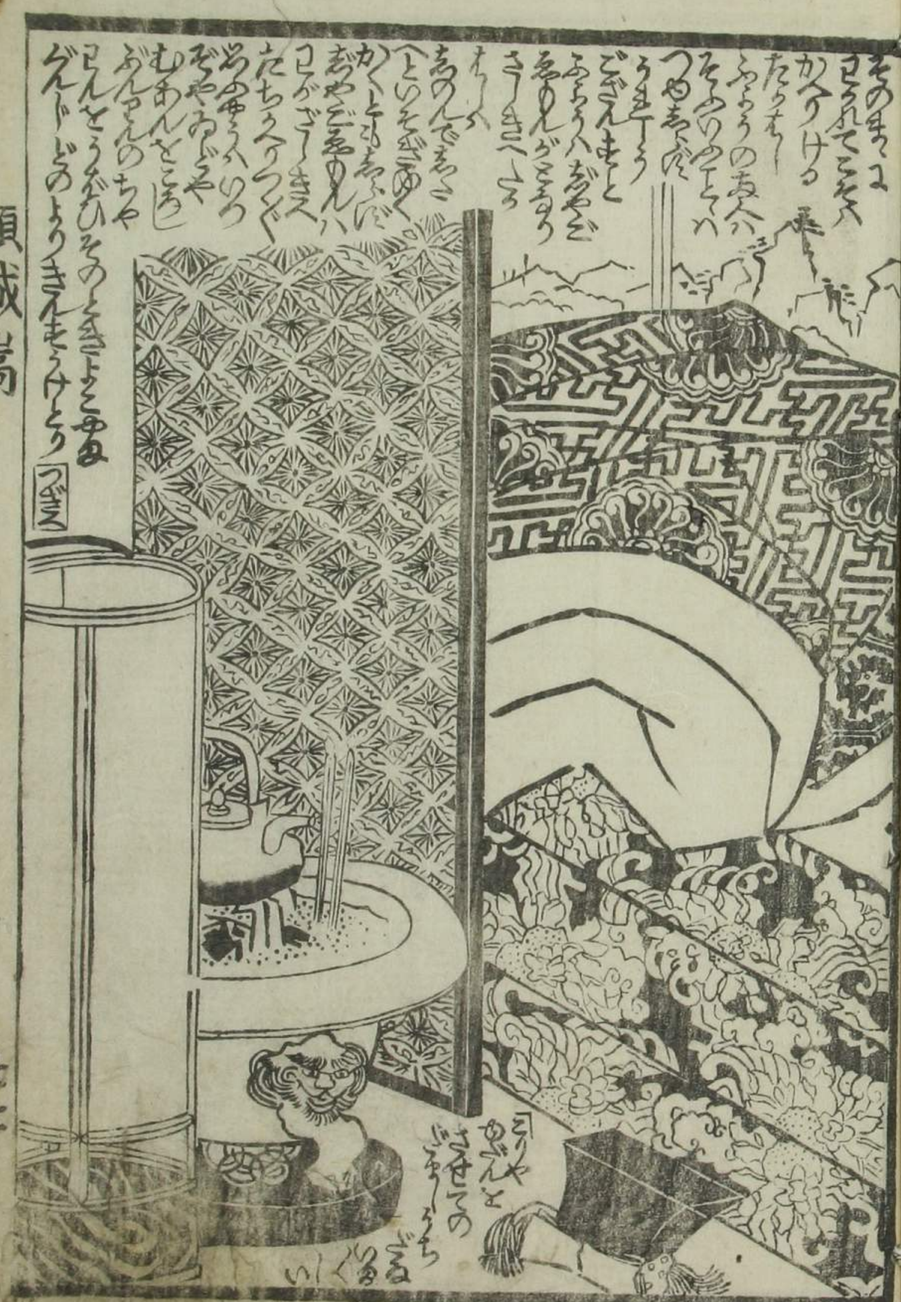
「手をあるゆもふるふるまるいり
コれでぶんもナア」

「ふりゆ
ぎんこ
さんを
ふくくく」

つぎへ

つぎ　番りんをのどーたらきーたらーれとぜぜんぜんつりんしーげあぶたでちふぬくとたかりのろてねるとのはるかのめせうちのてがうぶでれがーてるめふんどんでさろまく　今ゆがつくふまもてよわるとちとの　あをきー　ぜんぜんたらとめくめんでもいつくんあんよあつくる人　ちふぬぶんゆそもあさんとさてちぜん　ぜ

そのまつこ　さられてこそ　かりけるたちもふうのあ　そのゆては　つねちだうまーう　ごぎんもと　ふちうハぢもと　ちのんがこるう　さうきへとう　ちのんでちさ　へとのそぎあく　かくともちぶた　ぢやこちのんハ　コがごーきえ　たちうてつぐ　ちのまうハのう　ぞやねぐそ　むあんをこら　ぶちんのちや　らんをうぶひそ　ぐんどどのとうきんをみけとり　つぎへ



つぎ　つぎはもてけまぶるもちやうんはまづてあのふぶそのうくねどやのうちくたのてん〜うと
いつてうりあのまぶてあちやうんとさああきをあうくゆも大金ふせんとうろくとまあんを
やぐすー　今もぐんぐあまぶあんともりつてうりふきうまでうみればのそやのふ
かるくあすーとちつのてねえんくぐいひとうくぐこのみかとのみあうるふありひげるき
とうりぐーきよりふうくぐぐうとはきぐまをひとうくぐ

◪あぐんくん
ぐさことはを

吸物膳
五十人前
六番の内

ことされあつと
いつてたちてとところ
ちやうりハくちちうが
孫ん作きををまひとうくぐ
のりをうけてつよぬれまつてん
ふうりハぐーきうけここサアおやぐまりんてんやハありひ
まつぐうふくんハいどあむあんどのとうろーぶんんのちやうんを
ぬまきとうくるとサアまつまぐふまくぜうくうとつるみくく
ぎけいまをまバへびづくまやぐまりん八分八るあとうつくかくそへ
かまふうのようこーあぐんどどのかひてぶんうんのうちやうんとのぐまを
たとえいどあむあんをとうーとあうとうむいのうつてまとあうまみ

ちんうの
わんやた
ぐまぐまりん
ぐうんわん
まるん

あびちくまれバふあのうひこれんとあるうこうまよ
ふあのつるうてげあのとあるあ
あるぐまんげーきよあのび入て
ちやうんをうぐひたちのくと
むあんハやきとくぐコまとこつけて
ムせのあとのふぜひまくいうきうる
さーこうーいうこうふまうくうる人ハ
あうーこのあとふそこのちやうんと
かまんとくつうこさんとんちりぐも
ふのうふも大今ようんとのまふ
こうよのつてあるとのふもてんうんの
まうこうまうこうて今うこうると
のあてんまこと人ハ
うき世のゆめ
ちうくだんどやく
ぐげけてあるこ
せんまんちうこて
いうこうこうサア
こちうこうてこび
たひふとさまぶ
むくあんのちりひ
きうけるげるう
さのぐこうまぶんこハ
初ふうをとのうえひいで
きこうこびハ初ふうぶのふうくせまと

ヤアちのうんが
もてきまる
ことを
まうこ

ヤアちのうんく
えんのちやんの
どこうやう

ヤアこのうんが
とんぐことを
ぬうりぐ
こうまうぐ

國安画

坂東太郎伝

筆工 千形道友

右五御遊人てう図述

東西く 作者口上

一 京都 いろはぐんたん坂 かるためそうひろめ井ル
此角のうちあのうちうぞ
此用あのせつかられ井ルや
八百八丁のまちうちまみまぞ
ぎうちうとやあみ〜そまろうまもる
ちあ〜あほ〜さあう

文政九年丙戌孟春 仙鶴堂 發販

御免 日光御宮 御参詣供奉御役人附 横本 袋入全一冊

御免江戸暦開板所 毎年十月下旬より賣ひ出す 浮世文社作付てこれなし

新撰 **日本名所之繪** 唐紙摺 一枚 蕙齋鍬形絵眞筆

此図ハ京都ハ別の図く角く所城北社仏閣名所東海山川の絶地景色まのあたりをうつしとるべく
北理方角うつしを正て廣大の日本国あまねくこの絶景の珍宝なり

新撰 **女古狀揃園生竹** 大本 半紙本 西品出来 高井蘭山編撰

はるハ女今川状をはじめ色々とれ状すべて拾ひ集めあつめ
あつめく往来まて行西を始児女の資用多つ

早操自在 **日光道中記** 一枚摺 日光宮海内図 彩色其西ハ

子供節用集 全一冊 婦人往来 庭訓 初学無尽蔵 百人一首

御家流女用文色紙染 全一冊

蓑笠翁隨筆 **玄同放言** 初編二編共二 六冊 第三編三冊 近刻 曲亭馬琴著

右第三編三冊 第三の編より動物の部の部にいたる
曙三郎上ぐく 写真はて 洋の作者の考紙尽せり 雅俗とあく見るに目れ世界のもの
なり 初編二編にいやまりくもり 奥あるべ 見のもんとてまり 通到の上を被ぶ

還魂紙料 古画入三冊出来 柳亭種彦隨筆

豪福塵劫記 全一冊 改正增補仕すべく百年来名まかり設ける所の類似の類の中の新作役者の小伝尚御[illegible]の[illegible]て考へ附し[illegible]雅客の君の書ふかうねど一附乃眼に夢イ[illegible]

懷中早割大全 小本一冊 廣益塵劫記 [illegible]

新形染彩目植花手引糸 前編出来 前北齋為一筆 後編嗣刻 [illegible]

似顔早稽古 後編 芝居役者 全一冊 十返舎九編 哥川豊国画

役者評判記 全三冊 八文舎自笑評 三箇津藝品定 [illegible]

東都書林 本町通東江八丁目 油町翠橋之西 **仙鶴堂 鶴屋喜右衛門版**

傾城水滸傳貳編 全八冊 曲亭馬琴作 哥川豊國画

絲櫻花本朝女訓 全六冊 曲亭馬琴作 哥川豊國画

尾上松緑百物語 全六冊 尾上梅幸作 哥川豊國画

美艶仙女香 世に[illegible]三[illegible]四十八回 南仙笑楚満人作 坂本氏

左甚五郎紅絹甚三 柳亭種彦作 哥川國貞画

當世職人合 全六冊

雁金紺屋作早染 全六冊 柳亭種彦作 哥川國貞画

情競傾城嵩 全六冊 阪東秀佳作 哥川国安画

福神御利生於金返 全二冊 南仙笑楚満人作

新選なぞなぞ 全二冊 哥川国安画

錦繪團扇地紙問屋 江戸名物 [illegible]

仙鶴堂鶴屋喜右衛門板 江戸通油町翠橋之西 [illegible]

梅精奇譚魅草紙 全六冊 式亭三馬作 哥川國安画 [illegible]